



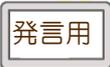
パソコンテイク始めました！



🏠 ゼロからのスタート

本学で本格的な聴覚障害学生支援をするのは初めて

- 専門職大学院→**専門知識**の必要性、情報量の多さ、**双方向授業**
- 国内外の大学を**視察**し、本学の支援体制を模索
- 聴覚障害学生、関係教職員の**ミーティング**を月に1度開催
- 聴覚障害学生の発言を**モニター**に映出し、双方向授業への参加を保障
- 前期にパソコンテイク**養成講座**を6回開催(述べ51名の参加者)
- 当初はプロの力を借り、徐々に学生テイク中心の支援体制に移行



🏠 パソコンテイク始動

学生テイクだけでのテイクを始めたものの、当初は分からないことだらけ・・・

- 「先生の話の細かい**ニュアンス**や**強調部分**の伝え方はどうテイクしたらよいか」
- 「図の説明には**指示語**が多く出てくるためうまくテイクできない」
- 「固有名詞の**漢字変換**がうまくいかずに戸惑ってしまう」
- 「先生から質問されていることをすぐに利用者に伝えられない」
- 「ペアテイクの際**一文交代**だと相手のフォローが出来にくい」
- 「テイク者両者が同じ内容をテイクしてしまう」
- 「先生の話すペースが速くなると、メインテイク者が**要約**したのか**テイク漏れ**なのかわかりにくいためフォローが難しい」
- 「他の学生の発言時、声が小さくテイクできないことが多い」
- 「利用者の発言が書かれたモニターを先生が**黙読**すると周りの学生はその内容がまったく分からない」 など、戸惑うことの連続でした。



🏠 「講義連絡ノート」で情報共有！

そこで、講義で気が付いたことをメーリングリストで共有し、知識や技能を蓄積していきました！

- 「聴覚障害学生の発言は**モニター**に映出しそれを先生に読み上げてもらってはどうか」
- 「強調して話された部分は**カギカッコ**を使うとよいのでは」
- 「**単語リスト**を作って変換の練習をするとよい予習になる」
- 「変換ににくい漢字は長く打って変換**一文字消す**方法がある」
- 「図のテイクは、同じ図をサブテイク者が描き写し独自に矢印等に番号を振った上でテイクをすると分かりやすい」
- 「5分交代の時は**消しゴムの受け渡し**で担当を確認している」
- 「両者が同じ内容をテイクしてしまった時は**どちらが消すか**決めておくとスムーズ」
- 「利用者に先生が質問する時は『**質問です**』と書かれたカードを提示する」
- 「学生の回答を無理にテイクするより**先生の解説**をしっかりテイクすべし」
- 「その場の**雰囲気**を同じように体験できるようなテイクを目指した」
- 「前日に**早く寝ること**や**爪の長さ**を整えることが意外に大事」など多くの提案がなされ一つ一つ改善しながら支援体制を積み上げていきました。



🏠 障害学生 × ティーカー × 教職員 = 振り返りの会

前期終了後、関係者が**一堂に会する場**を設け、今後のよりよいテイクに向けて話し合いを行いました。ティーカーと教員の意思疎通の仕組みを強化していくことが確認されました。学生テイク者へのアンケートでは「自分の授業でも**ノートを取るのが上手くなった**」「先生方が**パワーポイントを導入して下さり、わかりやすい授業が増えた**」との意見もいただきました。専門知識を持つ学生テイク者をどう確保していくかが今後の課題です。

・・・その後、現任者ティーカーのための「**スキルアップ講座**」、ティーカー同士の**懇親会**、聴覚障害学生による「**しゅわのかい**」が開催され、聴覚障害学生支援体制が着々と構築されてきています。

